

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念「共に生きる」のもと、日常生活はもとより地域に積極的に働きかけをし「ふれあいサロン」や「餅つき大会」「交通安全教室」と地域の方の参加も呼びかけ、ご利用者との交流も兼ね乍ら地域に根付いた生活をして頂けるように努力している。	○ 地域住民にアンケートをとりニーズを把握したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念を心に刻むように一番良く目にする玄間に掲げ、職員とも「共に生きる」ということは、どういう事なのか?話題にし取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事あるごとに、ご家族に話をしたり広報活動に出かけた時には地域の方に話しをし理解してもらえるように努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	こちら側から積極的に挨拶をしたり、交流することにより、地域の方にご利用者の名前や職員の名前など覚えて頂けるようになってきた。自宅では食べきれないからと自家製の野菜や漬物などを持ってきて頂いたり、年末には1年の感謝を込めて、お世話になった方を対象に「餅つき大会」に誘ったり、ご利用者が作られたプレゼントを渡したりと交流している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	庵我地区の運動会・文化祭に参加させて頂いたり、地域の秋祭り、ゲートボールに参加させてもらったりしている。老人会には加入させてもらっていないが、地域の独居の高齢者を対象に「ふれあい教室」を開いたり、「交通安全教室」を警察署と連携して開催したり交流できる場を作っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	保育園との交流、年4回 行政と連携して交流の場を作る
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	終末ケアの指針作成
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	外部研修への参加
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約するときには十分に話を聞いたり説明をしている。円満退居に繋がるように、ご家族の話を十分に聞き対処している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一度、介護相談員を受け入れている。また月末にはご利用者との話し合いの場を設け、要望などないか確認をしている。それでも、中々、苦情や要望など出てこないのが日々、生活の中で何気なくご利用者の方が言われた不満・要望など聞いた時には、職員が代筆をして要望箱に入れるようにしている。月1度、職員会議で検討している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書発送時に、ご利用者の担当者が、ご家族に向けて「生活の様子」を記入し送付している。職員が退職や異動した時には文書を、ご家族宛に発送したり広報紙にも掲載し報告をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所に苦情・意見箱を設置している。ご家族においては面会などに来られた際には、意見箱に投函して欲しいことを伝えている。中々、苦情や要望など出ないので日々、生活の中で何気なくご家族が言われた不満・要望など聞いた時には、職員が代筆をして要望箱に入れるようにしている。月1度、職員会議で検討している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼や職員会議などで意見など聴くようにしているが、中々、職員からの声が上がってこないのが課題。意識を高めようとして職員会議起案など介護職員持ち回りにしているが、建設的な意見はない。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>誕生日は担当職員とご利用者と1対1での対応になる。内容によっては誕生日でないときに行事を実施したり、誕生日に夜、外食したいという希望があれば必要な時間帯に職員を確保するようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホームは担当制なので、担当職員によっては近すぎる存在になりがちになり、強くダメージを受ける可能性も出てくるので、職員には「付かず離れず」ある一定の距離を置いて、ご利用者のケアにあたる様に日頃から話している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている</p>	<p>法人では新任研修があるが、正規職員を対象としている。非常勤職員や嘱託職員は対象外になるので、非常勤や嘱託などは働きながらのトレーニングになりがちである。今年度については対象者はいない。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2～3ヶ月間隔で市が調整役となって同業者の研修会が開催される。場所は、その時々で持ち回り他施設に訪問している。また北部のグループホーム協会の会員になり随時、研修に参加し意見交換や施設間の交流をしている。今年度は、職員の交換研修があり他ホームの業務を体験することにより「とだ」でのサービスの検証に役立てた。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人での取り組みがなされている。悩み事相談の窓口を設け24時間体制で職員のストレス解消に取り組まれている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人は人事考課制度を取り入れており、正規職員は目標を定めて目標達成のため日々、向上心を持って業務に当たっている。職員個々のレベルに合わせ、職員の得意分野を生かすような外部研修に参加してもらい向上心を持って働けるように努力している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接の時位しか、ご本人と話すことはなく、1回の面接で全てのことを聴けていないかもしれないが、話やすい環境を作り、聴く努力はしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みに来られた時、面接時などご家族と話す機会は多い。必要に応じて、ご利用者に必要なサービスをアドバイスしながら信頼関係を築いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時、相談内容を聞きご利用者の状況に応じて、その時必要なサービスをアドバイスをしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境に慣れるまで毎日の面会を依頼したり、頻繁に連絡を取ってもらえるように依頼している。また、必要であれば外泊などの依頼をして取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何事においても、ご利用者の意思を尊重しつつ事を運ぶように努力している。今年度は月に1回、ご利用者との話し合いの場を持つようにして生活の見直し、1ヶ月の過ごし方など要望を尋ね、実行できるように努力している。充分とは言えないが継続していきたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報交換をして、ご本人の支援に繋がるように努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族環境の背景を考慮しつつ、ご本人に成り代わって、ご家族に嫁や孫の面会を依頼している。また、認知症に罹られた頃から、親子関係がギクシャクしている家庭においては、職員が間に入り、ご利用者とご家族の橋渡しをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある地域から「ふれあいサロン」の案内を頂いて行ってもらいたいと働きかけはしているが、ご家族の同意が得られない。反面、地域の敬老会の誘いがあったら行ってもらえるように支援したり、車の乗降が困難で入居時から自宅に帰られたことがないご利用者については、ご家族と連携をし職員引率で帰宅されたりと地道に努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	馬が合わないご利用者が接近されたりする時には、職員が間に入るようにしている。ご利用者が孤立しないように気を配り対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>継続的に関わらなければならないケースがなく、退所されたら関係も希薄になっている。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>在宅で生活されてきたことが継続出来る様に取り組みをしている。晩酌が日課のご利用者には、晩酌ができる環境を作ったり、月/1回、ご利用者との話合いの場を持ち、要望・過ごし方など出して頂き、希望に沿えるようにしている。また担当制を導入、担当職員が希望や要望を把握し、申し送りをし職員の意思統一を図っている。困難な場合はケース会議などで、本人本位を考え検討している。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>各職員、ご利用者の話は聞いているが、取りまとめたものはない。</p>	<p>○ 生活史を作りたいとは思っているが、職員の負担を考えると躊躇している。</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々、申し送りや生活チェック表を確認しながら一日の過ごし方を把握するように努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作る際には、ご利用者やご家族の要望を聞き取りケアプランに活かす努力はしている。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ご利用者の心身に変化があった時には見直しをするように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、生活確認表に記載しているが、介護計画の見直しには活かされていないのが現実である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望に応じて、可能な限り支援できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	戸田の民生委員は、以前みつみ福祉会で働いておられた方で、福祉については理解のある方で、行事や何かと協力をして貰っている。消防には年2回、消防訓練で立ち合いをしてもらったり、警察署には地域貢献事業で交通安全教室の講師など協力して頂いた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前や申し込み時には、他の事業所・ケアマネジャーと話す機会があり、話の内容によっては他のサービスを勧めることもある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において、地域包括支援センターの職員も同席してもらっている。必要に応じて協働して頂く体制はある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご家族で対応してもらっている。必要に応じて職員が引率したり、往診者については、職員立ち合いし変化があった時には、随時ご家族に報告している。また必要に応じて、ご家族に連絡をして往診時の立ち合いを依頼している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>専門医との関係が薄い。現在、専門医の診察を受けておられるご利用者もおられない。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師が常勤。ご利用者の健康管理に努めている。健康観察を少しでも普段と変わった様子が見られたら、主治医に相談したり、ご家族に通院依頼をしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>今年度については入院されたケースはない。過去にはソーシャルワーカーと面談などして退院後の生活について意見交換などした経緯もある。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末については今後の課題。重度化や終末の捉え方が職員統一されていないので、統一する所から始める必要がある。</p>	<p>○ 重度化・終末について指針作成</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度になっても体調を見計って可能な限り、外出が出来る様に支援したりしている。遠出をする時には主治医と相談して可能かどうか判断している。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他施設の入所前には、情報交換を行なっている。入所後でも問い合わせに応じる準備はある。生活状況・健康面については書面を以って他施設に送っている。入居後もご家族やケアマネージャと連携をし、必要に応じて情報提供してもらい、住み替えによるダメージが少しでも軽いうように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報紙への名前・写真掲載には、十分に気を配りご家族には事前に説明し同意を得ている。排泄介助や入浴の際には、他者の目に触れないように配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者の理解力のレベルを把握できていない職員もいる。指示・命令口調にならないように会議の場で、議題に挙げて取り組んでいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事は当番制だが無理強いはしない。入浴時間は本人の希望に添うようにし、ご利用者の要望に添えるように日々、努力しているが職員によっては、職員の都合をご利用者に押し付けることがある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	カットはご家族に依頼し、馴染みの美容院に出かけられるように支援している。その日の服は自分で選んできて頂けるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は当番制だが無理強いせず、皆でカバーしあっている。配膳は皆でしている。自分の食器は自分で洗っている。また、ご利用者によっては、得意料理など作ってもらい献立の一品に入れるなど取り組みをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー・紅茶は何時でも飲める状態にしている。晩酌を楽しみにしている、ご利用者については毎日、飲酒できる環境にしている。	○ 酒・煙草は体調のことを考慮しながら、ご家族と相談しながら基本的に要望に添えるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを見計って、トイレ誘導を行っている。歩行出来ない方も、夜間のみオムツ使用で、日中は布パンツにパット、トイレでの排泄が出来る。</p>	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>介助が必要な方は週/2回は入浴して頂いている。介助が必要な方で排便が多量にあった時や、失禁があった時などは必要に応じて、週/2回に拘らず、臨機応変に入浴をして頂いている。見守りで対応できる方については、希望に添って柔軟に対応。毎夕食後に入浴されている方もおられる。</p>	
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個々の体調に合わせて休息の声かけ。意思表示が困難な方については、ご家族から情報を頂いて習慣に添えるように、職員が休息できるように支援している。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>調理・掃除・洗濯の当番表を作り、交代で職員と共に仕事をして頂いている。「生きがい教室」と名づけて、月末にご利用者と話し合いを持ち、来月の活動を決め、1週間ごとに取り組んでいる。</p>	
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の了解を得て、ご利用者ご本人に所持して頂いている。所持金は個々により違いがある。買い物出来る方は、職員と一緒に出かけている。小遣い帳を作り、ご家族に報告している。</p>	○ 買い物が気晴らしになる方が多いので、偏りなく頻繁に連れていって挙げられるように取り組んでいきたい。
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>1日1～2回は戸外へ散歩に出かけているが、介助が必要な方については中々、出かけられず回数に偏りがある。職員がご利用者の希望に添えないときは、ご家族に依頼をして外出出来る様に支援している。</p>	○ 偏りがなく支援していきたい。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご家族の協力を得ながら、年間行事に外出を取り入れている。また、誕生会にはご本人の希望を聞き、担当職員と個別の外出も行なっている。</p>	○ 観劇・寄席などご利用者の意向を聞き楽しみの支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で公衆電話から掛けられている方や、携帯電話や自室に電話機を置き自由に電話を掛けられている。また、敬老会で頂いた子供さんへの手紙に対し返事を書かれた方もおられる。	○	職員に促されて手紙を書かれている。自発的ではない。職員が促しても文章を書くことは大事だと思う。職員が意識して働きかけが出来る様にしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に規制を作らず、何時でも来ていただけるようにしている。個々の居室や、談話室で過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに努めている。外部研修に参加したり、マニュアルを作成し全職員に対して意識向上に努めている。問題だと思う行為については会議などで検討している。	○	身体拘束こそしていないと自負しているが、言葉の拘束は時折、耳にする事がある。言葉の拘束について今後、課題で取り組んでいく必要があると思っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに、自由に入出入りが出来る環境にしている。またそれに伴い、事故に繋がらないように見守り対応をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、ご利用者の健康面・精神面・行動面の情報交換を行い所在確認、状態確認に努めている。夜間においても2時間ごとに見回り、安全確認に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理のできる方は、ハサミや剃刀、爪きりなど見守り・確認を行いながら所持・保管をして頂いている。服薬については、看護師にて管理をしている。保管場所については、鍵が掛かるロッカーで保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や危険な事があった時、事故報告やヒヤリ・ハット報告書の提出、及び各職員への意識徹底を図っている。行方不明時の対応、緊急対応については、マニュアルを作成し各職員の意識徹底に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>個別的に指導・助言をする。その都度実施。転倒・急変時にはバイタルチェックをするようにしている。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の防災会議を実施し、職員会議で全職員に周知徹底ができるようにしている。年2回、消防署立ち合いで避難訓練と消火訓練を実施している。また1ヶ月に1度、避難訓練を実施すると共にスムーズに避難ができるように、ご利用者に助言をしながら進めている。</p>	<p>○</p> <p>地域の協力体制が課題で次年度は、地域の消防団と合同で避難訓練を実施したいと思っている。また通報装置にも地域の方の了解などを得て、登録したいと思っている。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>面会に来られた時には身体状況や生活状況など報告させて頂いている。今後の対応についても、ご家族と話をもちながらグループホームの生活が継続できるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>家族とケアマネ・看護師との話し合いを取り組んでいきたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>朝礼や申し送りなどで情報を共有し会議でも話し合っている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>投薬時には職員に説明をしている。また、薬の処方箋をケースに綴じ職員の目に触れるようにしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>水分補給は個別に対応し、毎日の飲水量の把握をしている。生活確認表に排泄面を記入し、介助が必要な方や排便確認が出来たご利用者にはチェックを入れている。散歩やゲートボールなど適度な運動を取り入れ便秘症の改善に取り組んでいる。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>介助が必要な方については、毎朝・晩、義歯の洗浄やうがいなど実施している。口内炎などで疾患がある方には毎食後、口腔清潔を介助している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は生活チェック表に残している。カロリーや栄養バランスについては、検食簿へ記載している。月/1の割合で同法人の敬愛荘の栄養士が、検食簿の確認に来ている。	○	不定期なので定期的に栄養士が確認してもらえるように働きかけをする。職員会議で栄養について議題にあげ栄養師にも参加してもらう。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり発生時には、マニュアルに添って対応する準備はある。インフルエンザ流行期には職員会議などで議題に挙げたり、ご利用者と一緒に園内研修を実施したりと取り組んでいる。	○	手洗いの徹底と外出先から帰宅したときには手洗いと嗽を励行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	保健所からの注意報通達を意識している。また流行時には生ものを控えたり、使用する際には当日中に使用している。またご家族からの持込みについても文書を持って注意を呼びかけている。流行時には職員会議などで議題に挙げ食中毒予防・防止の取り組みをしている。	○	調理器具は常に清潔に心掛けている。毎晩、ふきんやまな板など漂白剤にかけて清潔にしている。園内研修の取り組み。 今年度、ご利用者を交えて食中毒予防の話をしようと計画していたが、風邪が流行りできなかった。次年度については、ご利用者も含め食中毒予防について研修会を持ちたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にはベンチを置き、天気の良い日にはご利用者が日光浴をされたり、交流の場になっている。また玄関前にグラウンドをご家族の好意で作って頂き、ご利用者の楽しみの場になっている。	○	グラウンドを地域の方に開放し交流を深めたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールなど季節の花を飾り季節感を取り入れている。廊下やホールにはソファを置き何時でも寛げられるように環境を整えている。玄関・ホールにはオゾン脱臭装置を装置し消臭に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下のソファや談話室では、ご利用者が思うように過ごされている。	○	畳の間の有効利用

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染みのあるものを持ってきて頂く様に依頼している。入居後、ケアする中で必要と感じられたら、その都度依頼し持ってきてもらっている。ご家族が遠方で中々、持ってこられない所には、ご家族の許可を取って、ご本人と一緒に自宅に行き必要な物を持ち帰ったりして居心地良く生活できるように支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には、室温計をとりつけ訪室時には常に確認をしている。暖房を使用する季節には窓を開け換気を心掛けている。気温の変化に順応出来ない、ご利用者は特に注意し確認している。廊下とホールには、オゾン脱臭装置があり、臭いが極力しないように対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣場には今まで、手すりがなく立位を取るときには、ふらつきや転倒の危険性があった。脱衣場に手すりを付け、立位が取りやすいようにした。廊下には手すりが備えつけてあり、必要に応じて使用されている。床はクッション性があり転倒されてもダメージが最小限で押えられるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	安心して生活ができるように日々、努力しているが職員が不安にしたり混乱させていることが多々見受けられる。	○	職員によって「認知症」という病気の理解ができていない。認知症についての研修に参加。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ご家族の協力を得て玄関前にグラウンドを作って頂いた。ご利用者が気軽にゲートボールなどが出来る様に活用している。また初夏から玄関前にテントを張って日光浴ができるようにしたり、冬にはイルミネーションを点灯させて、ご利用者に楽しんでもらっている。	○	グラウンドを地域の方に開放したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

京都府 グループホーム とだ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度は計画性がなかったが、地域の独居老人を対象に「ふれあいサロン」や、子供会・お世話になった方を対象に「餅つき大会」、地域の老人会の参加を声かけし「交通安全教室」と地域貢献に役だてた。石原地区を対象にしたボランティアも、次年度からは遷喬地区で取り組んで頂くことになり、戸田の地域住民もボランティアに参加して頂ける事になった。戸田の地域住民からも、グループホームに対し関心が出てきつつある。

ご利用者やご家族の思いや要望など身近に感じられるように、今年度は月/1回 「ご利用者との話し合い」や、苦情・要望など、ご利用者・ご家族・地域住民が何気なく言われた話など職員が代筆し問題意識を持って改善しようとする取り組みをしている。